

20069

大動脈弁狭窄症に対する TAVI にて Evolut Pro の拡張不全の経験報告

【症例】89 歳男性 息切れ、倦怠感を主訴とし他院から紹介。うっ血性心不全を認め、心エコーにて peak flow4.63m/s mean PG57.4mmHg と重度大動脈弁狭窄症にて TAVI を行う方針となった。術前 CT では Valsalva 洞、NCC、RCC、LCC ともに石灰化は強く、特に LCC の石灰化が多く、LVOT から僧房弁輪まで続いていた。Calcium Score4232 だった。手技は問題なく終了した。しかし、翌日の心エコーでは AVMax4.373m/s、AVmPG41.2mmHg と術前に近い流速であった。また、完全房室ブロック、高度房室ブロックを認め、PMI 施行。PMI 留置後リード確認 CT にて Valve の拡張不全がわかった。follow の心エコー4 日後では AVMax3.51m/s、AVmPG26mmHg、5 日後で AVMax2.74m/s、AVmPG18mmHg と改善がみられている。【計測】同じ Evolut Pro29mm を留置した患者で留置後の Valve の計測をした。Valve の下、最小の位置、上での面積を計測。対比の症例での下 Area3.84cm<sup>2</sup>、最少 Area3.54cm<sup>2</sup>、上 Area7.39cm<sup>2</sup>、今回の症例、下 Area2.18cm<sup>2</sup>、最少 Area2.11cm<sup>2</sup>、上 Area7.5cm<sup>2</sup> と面積からも拡張不全がわかる。【考察】今回、Evolut Pro における TAVI にて Valve の拡張不全を経験した。石灰化の影響により拡張不全が生じたと考えられる。留置後のシネ画像を見直すと歪みが確認できた。術中に気付いた場合 BAV も考慮できたが、リスクが大きいと考えられる。Evolut Pro は構造上弁の位置が高いため、拡張不全をおこした場所よりも弁の位置が頭側にあったため、機能は保たれていると考えられた。